

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和 8年 3月 28日

事業所名 ももの木

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	1	小部屋の整理整頓の定着化必要に応じて小部屋を活用しているが、もう一部屋あったほうが活発に遊びたい利用者とうではない利用者で分けることが出来ることより安全に遊べるかと思う	必要に応じて小部屋を活用しているが、もう一部屋あったほうが活発に遊びたい利用者とうではない利用者で分けることが出来ることより安全に遊べるかと思う
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	0	職員同士でお互いにフォローし合いながら、デイを回している	国の定める基準に従い、職員を配置している。業務の効率化や協力体制を整え、日々の支援・業務を進めている。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	2	2	段差は少ないが、トイレが狭い。トイレなど車椅子では狭さを感じるため、物を片付けたり移動させたりして工夫している。	トイレは物の配置を工夫する等して広さを確保している。今後もしようすれば改善できるか模索していきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	1	おもちゃの収納場所が足りず、小部屋に置いてあるものもあるため収納場所を増やせると良い。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	0	集中して宿題に取り組みたいときや、集団で落ち着いて過ごすことが難しい時などは個別に別室で取り組むことができている	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	0	TODOリストの作成と振り返り、事業所内では打合せの時間に振り返りなどを実施し、全員で課題に取り組んでいる	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	1	保護者向けの自己評価表	保護者向け自己評価を職員間で共有する等、業務改善に努めている。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	0	定期面談などで相談させて頂いたり、必要に応じて相談させていただいたりしている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1	2	把握していない	現在は、設置していない。今後、法人と相談をしながら、外務評価も視野に入れていきたい。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	0	定期的に内部での研修や、必要に応じて外部研修の受講を受けています	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	0	スタッフ間で相談し合いながら、活動の計画を立てている	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	0	定期的に保護者との懇談などを実施している	今後も適時、保護者と連絡を取り合いながら進めていく。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	0	月に1度ケース会議を実施している	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	0	早めに共有ができるとよい	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	1		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和 8年 3月 28日

事業所名 ももの木

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	1		研修などを通して職員が放課後等デイサービスのガイドラインについて把握に努めている。その上で支援計画や日々の支援内容に反映するようにしている。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	0		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	0		
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	0		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	0		
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	0	翌日の打合せ時に前日の振り返りを実施している	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	0		
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0	0		
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促す力を育てるための支援を行っているか。	5	0	0	色や作成するものを選択する機会を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	0		
	27 地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	1		
	28 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	5	0	0		
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	1	2		小学校高学年以上が利用対象の為、自事業所では行っていないが、同法人の他事業所では、行っている。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	0	1		適切に情報提供を行うようにしている。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	1		研修があれば、適宜参加している。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	0	公園などで会った地域の子どもたちと一緒に遊んだりすることがある	
	33 (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4	0	1		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 8年 3月 6日

公表: 令和 8年 3月 28日

事業所名 ももの木

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	0		
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	1	3		懇談時や、困ったことがあれば、その都度、相談をしながら、解決方法を模索している。
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	1		
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	0		
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0	1		
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	0		
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	2	1	2		
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	0		
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	0		
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	0		0
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	0		
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	1	3	今年度のクリスマス会では、調整の結果地域の方を招待しないことになった	今後も広く参画してもらえるよう検討していく。
非常時等の対	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	0		
	47 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	0		
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	0		
	49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	0	2		適切に対応するようにしている。
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0	1		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和 8年 3月 28日

事業所名 ももの木

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでも ない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
応	51 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	0	1		
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	1	1		ヒヤリハットを作成して、情報共有をしてけがや事故に繋がらないようにしている。
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	0		
	54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	1		全職員がマニュアルを周知して支援を行っている。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月 28日

事業所名 ももの木

保護者等数(児童数) 35名 回収数20件 割合57.1%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	0	0	2		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	19	0	0	1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	1	0	3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17	0	0	3		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等にに応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	0	0	1	子供のことをいつも気にしてもらっている	
	6 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1	0	4	はい支援プログラムの把握ができていません。すみません。特になし支援プログラムをよく読んでいませんでした。すみませんわかりませんあつてと思う問題無いと思います合ってると思います。はい楽しんで手先きを使っているようです特に意見ありません大丈夫だと思いますはい合ってます。丁寧に説明して頂いています。ありがとうございます支援プログラムがあることは知っているが、確認していないため	ホームページで支援プログラムを公表しています。支援プログラムに沿った支援が実施できるよう今後も工夫を重ねていきます。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	18	0	0	2	とてもよく考えて頂いてます短い時間の聞き取りの中でも支援計画を作成していただき感謝しています。ありがとうございます。特になしこどもとどんなはなしをしているのか、わからないためいつもありがとうございます保護者の意見も聞いてくれて作成してあるのでいいと思うとても丁寧かつ具体的になっていると思いますいつも細かく説明しながら作成してくれています。はいこちらの希望を聞いていただいています年に1回は面談があるのでそれに基づいて作成していただいていると思いますはい細かい部分まで配慮され作成されていると思いますバッチリだと思います。こだわりなども理解して頂き、指導して頂いています。細かく支援ありがとうございます対面で面談を行うようになったため	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	0	0	3		

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月 28日

事業所名 ももの木

保護者等数(児童数) 35名 回収数20件 割合57.1%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19	0	0	1		
	10 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	0	0	2	子供が楽しく活動できるように、飽きないよに工夫してくれていると思います。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	4	12		
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	0	0	2		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	2	0	0	丁寧に説明してくれています。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	3	0	9		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていますか。	18	2	0	0	その日の出来事を送迎時に聞くことはありますが、あまりゆっくりお話ができない。	毎回連絡帳で事業所での様子をお伝えしていますが、必要に応じてさらに保護者と共通理解を図れるよう努めていきたいと思っています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	0	0	4	いろんな相談に乗って頂けるので安心です。まだ助言の支援は受けていないため。特になし帰りに、あまり事業所のかたと話さないでわからないためいつもありがとうございます。定期的に面談機会あり何か相談や質問があった時など聞いてもらってます。はい送迎時にご相談いただけます何かあればその都度お話しして支援して下さるので良いと思います。分からないです面談や助言など、大変満足しています。毎回申し送りありがとうございます。お迎えの時など困ったことを相談させて頂いています。迎えに行く時に毎回説明があります対面で行われるようになった	適時、懇談や電話連絡等を通して、お子さんの状況や困り事の相談に微力ながら助言・対応させて頂いています。今後も保護者様が相談しやすい環境を整えていきたいと思っています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	0	0	3	支援員さんに息子の取り扱いについて共有していただいています	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	3	1	8		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	0	0	5		
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	1	0	3			

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月 28日

事業所名 ももの木

保護者等数(児童数) 35 名 回収数20件 割合57.1%

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15	1	0	4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	0	0	2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1	0	4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	0	0	2	訓練をした日は、決まって家でも口を押さえたり、頭を抱えてしゃがんだりしています。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際 の状況等について説明がされていると思いますか。	18	0	0	2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	0	0	0	楽しみにしています。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19	0	0	1	利用がない日でも行きたがります。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	1	0	1	利用料ですが、金融機関の引き落としにして欲しいです。土曜日も含めて楽しく通っています。	利用料の件ではいつもお手数をおかけしています。社内で今後検討していきます。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アシスト ももの木		
○保護者評価実施期間	R 7年 4月 1日		～ R 8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	R 7年 4月 1日		～ R 8年 4月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価作成日	R 8年 3月 6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所内に公認心理師を1名配置しており、各利用者の特性や発達課題、行動面の特徴を踏まえたうえで、専門的知見に基づく支援を実施しています。	公認心理師に加え、児童指導員、保育士、社会福祉士を配置しており、多職種それぞれの専門性を活かしながら、利用者一人ひとりに適した支援内容の検討や支援方法の立案を行っています。日々の支援においては、利用者の様子や変化を職員間で共有し、多面的な視点から支援の方向性を確認できる体制づくりに努めています。	直接支援に加えて、専門職員による事業所内研修や助言の機会を継続的に設けることで、職員全体の理解向上と支援力の底上げを図っていきます。また、支援上の課題が生じた際には、実際の利用場面に即して利用者の様子を丁寧に確認し、専門的知見を踏まえながら、本児に適した支援方法を検討し、実践につなげていきます。
2	事業所は1階に位置しており、身体面に配慮が必要な利用者も入室しやすい環境となっています。室内は大きな段差が少なく、床面も滑りにくい構造となっているため、比較的安心して移動しやすい環境を整えています。また、利用者が落ち着いて過ごせるよう、活動や移動に必要な空間を確保しています。	利用者が安心して安全に過ごせるよう、必要に応じて職員を適切に配置し、身体面に配慮が必要な利用者には個別に見守りや介助を行える体制を整えています。また、活動プログラムについては、本人のできることや得意なことを活かしながら、無理なく参加でき、達成感や楽しさを感じられる内容となるよう工夫しています。	今後も、身体面に配慮が必要な利用者がより安心して過ごせるよう、可能な範囲で環境整備やバリアフリーの視点を取り入れた改善を進めていきます。また、利用者同士がさまざまな個性に触れる機会を通して、多様性への理解や相手を尊重する気持ちを育めるよう、共に安心して学び、成長できる環境づくりに努めていきます。
3	デジタル機器を活用した運動療育を実施しており、利用者が興味や関心を持ちやすく、楽しみながら主体的に取り組める支援環境を整えています。	協定運動を取り入れた活動を通して、運動機能の向上だけでなく、「見る力」「聞く力」「判断する力」など、日常生活や集団参加に必要な力の育ちを支援しています。また、デジタル機器を活用することで、ゲーム感覚で参加しやすくなり、課題に対する抵抗感を和らげながら、意欲的な参加につながるよう工夫しています。さらに、多様なプログラムを設定することで、利用者の苦手さへの支援だけでなく、得意なことや強みを活かした関わりにもつなげています。	今後もプログラム内容の充実と多様化を図り、利用者一人ひとりの興味関心や発達段階に応じた支援をさらに深めていきます。また、結果だけに着目するのではなく、取り組もうとする気持ちや挑戦する過程を大切に、できたことはもちろん、努力や継続しようとする姿勢についても丁寧に認めながら、自己肯定感と意欲の向上につなげていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業運営に大きな支障はありませんが、事業所建物は築年数を重ねており、一部に経年劣化が見られる状況です。	法人内の他事業所と比較しても、設備面や環境面において改修を検討すべき箇所が見受けられます。一方で、改修内容によっては事業運営への影響や利用者の受入れ体制の調整が必要となるため、安全性、必要性、実施時期を整理しながら、計画的に進めていく必要があります。	改修が必要な箇所については、危険性や緊急性を踏まえて整理し、法人内で優先順位を明確にしたうえで、順次検討・対応を進めていきます。また、日常的な環境確認と定期的な点検を継続し、利用者が安心・安全に過ごせる環境の維持に努めていきます。
2	利用者が地域住民や障害のない方と関わる機会は限られており、多様な立場の人と自然に交流する経験を十分に持ちにくい状況があります。	地域の中でさまざまな人と関わる経験は、社会性や対人理解を育て、将来の地域生活や社会参加につながる大切な機会となります。しかし現状では、そのような交流の場が十分とはいえず、利用者が実際の関わりを通して学ぶ経験を広げにくい面があります。そのため、日常支援の中だけで完結するのではなく、地域との接点を意識的に広げていく必要があります。	地域の行事や催し、ボランティア活動等への参加を通して、さまざまな年齢層や背景を持つ方と関わる機会を増やしていきます。また、世代間交流や地域住民との交流につながる機会を継続的に設けることで、利用者が無理なく自然な形で地域社会との接点を持ち、経験を積み重ねられる環境づくりに努めていきます。
3			